

何か最近ちょっとだんだん自分も年をとって、そういうわびさび系がよくなってきたのかもしれませんがね。もう、そういうふうに思いますしね。やっぱり東北ってどうしても冬が長いし、何となく寒いところでみたいところはあるんですけどね。でも寒いそういう時期があるからまた夏が華やぐわけですし、世界的に見てこの福島の位置自体はかなり緯度的には低いんですよ。地中海のどこくらいかな。きちんと見てくればよかったなと思って、いま失敗したなとしゃべりながら思っているんですけど。例えばイタリアのローマとかフィレンツェなんかよりもっと、同じくらいか南かくらいじゃないかという気がしますよね。割と本来あったかいところだし、夏は暑いでしょう。だからまたそうやって凝縮したいろんなフルーツ王国というくらいね、いろんな果物もできるんでしょうし、そのあたりのメリハリは好きですけどね。

○MC: もっともっとアピールできるものがあるということをほんとお話ししていて感じますね。いろいろ聞くと。

○辰巳: そうですね。まだまだちょっとそんなすべてのいろんな季節に行っているわけじゃないので、これからまたこういうところに来て、逆にいろんなことを教わって、自分でまた行って見て、またどこかでしゃべろうかなと、そんなふうに思うんですけどね。

○MC: きょうはたくさんいろいろ聞いてまいりましたけれども、まだまだちょっとお時間があるので、よかったら私だけが質問するものなんですので、会場の皆さんからも、きょうのテーマに沿ってでもいいですし、辰巳さんに伺いことがあればぜひご質問いかがでしょうか。

○辰巳: 質疑応答コーナー?

○MC: はい。入ります。もうせっかくなので。

○辰巳: 大体こういうところで、なかなか手が挙がらないんですよ、福島は。

○MC: 福島はって括っちゃだめですよ。

○辰巳: でも何かぜひちょっとしゃべってください。

○MC: 挙げていただきました。

○辰巳: 挙がりました。あちらとあちらとお二人まずちょっと。マイク、はい、じゃあまずあちらの。

○女性: 最近よくテレビでクイズ番組とかによく出るんですけども、ドラマとかそういうのにはあまり出ないみたいなんですけれども。

○辰巳: ドラマのほうがいいですか。

○女性: はい。

○辰巳: そうですね。またドラマもやりますよ。今度映画がもう少しで公開されますし、いろんな仕事しなくちゃいけないんですけどね。

○女性: クイズはよく見えています。陰ながら応援しています。

○辰巳: そうですね。ありがとうございます。なかなかドラマは大変なんですよ。大変ってね、いろんな意味の大変さがあるんですけども。いろんな仕事をバランスよくやっていこうと思っておりまして。

○女性： これからも頑張ってください。よろしくお願いします。

○辰巳： ありがとうございます。あちらのほうにも手を挙がっていますので。

○MC： はい、男性の方が。

○男性： すみません。よくテレ朝のQさまなどを拝見させていただいているんですけども、その中でほかの回答者、宇治原さんや宮崎美子さんなどの回答者とはどう思っているのでしょうか。またその関係性はどのようなのでしょうか。

○辰巳： ちょっとどういうこと？ 質問の意味がちょっとよく分からないんですけど。

○男性： どう意識をなさっているのでしょうか。

○辰巳： クイズ番組っていうのはね、こんなことしゃべって悪いかもしれませんが。もちろん早押しとかなんかで競う場合はありますけども、基本的に自分との戦いなんです。自分がやっぱりまず閃かなくちゃいけない。それから何ていうかな、だんだん分かってきたはずなんだけど名前が出てこないというのをどう絞り出すとかかね。そういう戦いなのであんまりね。でも宮崎美子とか、それからやくみつるとか、あの辺はみんな同い年なのでね、同じようにだんだん年をくってきましたから、そういうふうにお互い何か励まし合いながら、そういう気持ちはありますよね。連帯感があるけど。でも本当にそのクイズ、その問題を自分が知っているか知っていないかのね、あとは何か知らないんだけど、何かどこか潜在意識に残っているのをどう引っ張り上げるかみたいな、そういう作業なんです。

だからある種、空から何かが降りてくる瞬間みたいなね、そういうことがないとなかなか勝てないんですよね。だからいかにできるだけ普段からいろんなことを吸収しつつ、体調もよくして臨むという、そんな感じでしょうかね。見ているほうはそうやって競い合いを楽しみたいというのはあるとは思いますが、勝ちたいと思っても勝てるものじゃないんですね。ほんとね。ときの運ですね。もっと言うと勝負事じゃありませんからね。本当に自分との戦いみたいなのが一番大きいですね。すみません、こんな。ほかにございせんか。あちらももう一方挙がっています。

○女性： 壇上の辰巳さんの足元を見ておりましたら、ソックスを履いておりませんでした。石田さんと張り合っていらっしゃるんですか。そしてきょうの装いもとてもすてきでさわやかです。専門の方に、スタイリストの方に組み合わせさせていただくんですか。

○辰巳： これはまず、石田純一さんは、あの人はもうノーソックス、ソックス履かないのが売りでね。ぼくもたまにはやってみようかなと思って、きょうはちょっとね、そろそろ夏かなと思って、ちょっと靴を見たら、軽い靴なのでソックスなしで出ようかと。ソックスを持ってくるのを忘れたというわけじゃないんですけど。そういうこともありますけどね。

○MC： ずっと私も隣で気になっていました。そこはちらっと足元を見て。ありがとうございます。あとで聞こうかなと思っていました。

○辰巳： やっぱりぼくはソックスあるほうが好きです。やっぱりでもね。何となくソックスを履かないと、ちょっと不安になってくるところはあるんですけどね。服は自分のあれです。きょうはどんな感じかなと思って、自前でやって来ましたので、ネクタイしようかどうかどうしようか、最後まで迷って、ちょっと割と広い舞台なので、ちょっとワンポイントあったほうがいいのかと思って、最後ぎりぎりにちょっとネクタイを締めてみましたと、そんな感じでしょうか。

○MC： ありがとうございます。拍手が起こりました。